

トビウオ通信 (R5 第2号)

<https://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/> (TEL 0855-23-4806)

《令和4年(2022年)の島根県漁業の動向》

島根県の漁獲統計システムにより集計した県内の漁業協同組合の漁獲統計資料(属人)などから、令和4年1月～12月における島根県漁業の動向を取りまとめました(集計対象は海面の漁船漁業のみ)。

全体 … 総漁獲量は前年の110%・総生産額は前年の118%

令和4年の島根県(属人)の総漁獲量は9万8千トンで前年の110%(平年比97%)、総生産額は177億円で前年の118%(平年比100%)でした(表1、図2、3)。

漁業種類別の構成比は、漁獲量ではまき網が全体の82%、定置網が6%、小型機船底びき網(かけまわし)が3%、沖合底びき網2そうびきが2%、べにずわいがにかごが3%となりました(図2)。生産額ではまき網が全体の42%、定置網が11%、小型機船底びき網(かけまわし)が9%、沖合底びき網2そうびきが8%、べにずわいがにかごが11%となりました(図3)。

魚種別漁獲量の上位5種はマイワシ(3万1千トン、平年比134%)、サバ類(1万6千トン、平年比86%)、ウルメイワシ(1万4千トン、平年比173%)、マアジ(1万3千トン、平年比65%)、ブリ(9千トン、平年比86%)となりました(図1)。

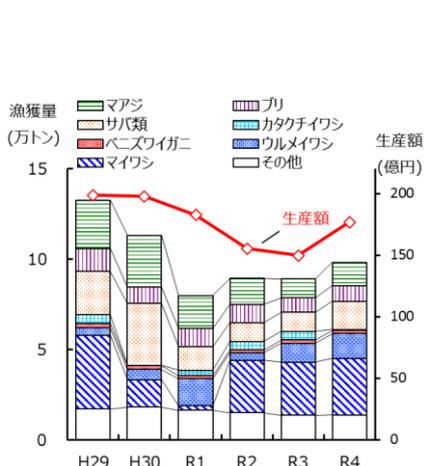


図1 総漁獲量・総生産額の推移

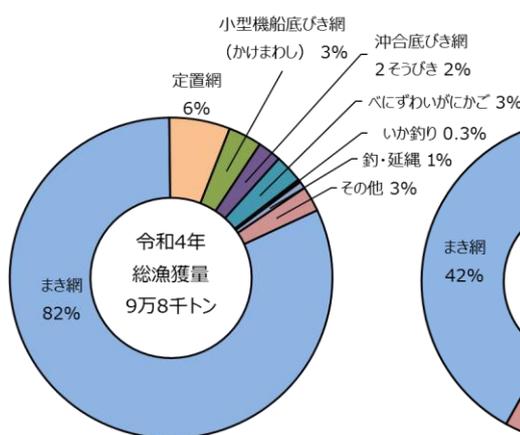


図2 漁業種類別漁獲量の割合

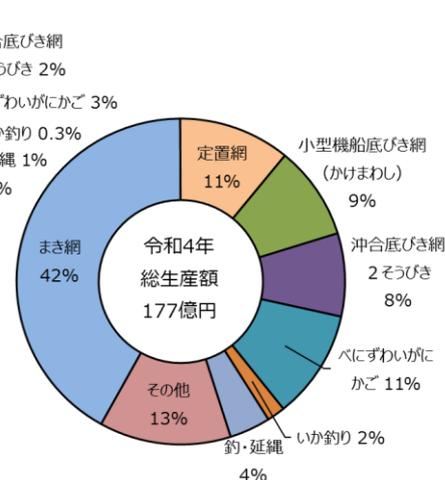


図3 漁業種類別生産額の割合

＜文中の語句説明＞

- 令和4年の漁獲量・生産額及び平年比は島根県内の全地区、全経営体を対象に集計していますが、沖合底びき網2そうびきの魚種別統計は実質的に県外を根拠にしている1経営体を除いた数値と比較しています。
- 「前年」は令和3年の数値、「平年」は過去5年(平成29年～令和3年)、沖合底びき網2そうびきのみ過去10年(平成24年～令和3年)の平均値を指します。
- 平年との比較は、平年比が120%より高い場合は「平年を上回る」、平年比80～120%は「平年並み」、平年比が80%より低い場合は「平年を下回る」としています。

まき網 ……中型まき網 1 船団あたりの漁獲量は前年の 113%・生産額は前年の 118%

本県の基幹漁業の一つである「まき網」には、中型まき網や大中型まき網などがあります。これらは主にマアジ、サバ類、イワシ類などの浮魚（うきうお）を漁獲対象としています。

令和4年のまき網全体の漁獲量は8万トンで前年の111%（平年比99%）、生産額は73億8千万円で前年の115%（平年比96%）でした。

まき網のうち、大半を占める中型まき網の漁獲量は7万5千トンで、前年の111%（平年比103%）、生産額は63億円で前年の114%（平年比98%）でした（図4）。前年に比べて、サバ類およびウルメイワシの漁獲量が増加し、その影響で生産額は増加に転じました。中型まき網1船団あたりの漁獲量は7千6百トンで、前年の113%（平年比111%）、生産額は6億5千万円で、前年の118%（平年比109%）とともに平年並みでした。

中型まき網の魚種別漁獲量の上位5種はマイワシ（平年比133%）、サバ類（平年比96%）、ウルメイワシ（平年比174%）、マアジ（平年比57%）、ブリ（平年比96%）となりました（図4）。

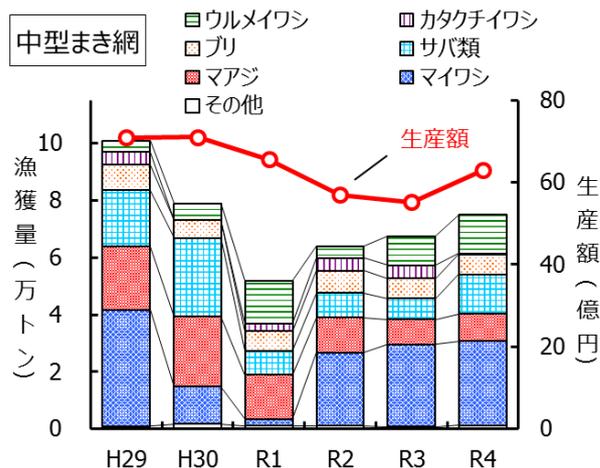


図4 中型まき網による魚種別漁獲量及び生産額の推移

沖合底びき網(2 そうびき) ……1 船団あたりの漁獲量は前年の 97%・生産額は前年の 104%

沖合底びき網（2 そうびき）は2隻の漁船で網を曳き、カレイ類、アンコウ類、アカムツ（地方名ノドグロ）など海底付近に生息する魚介類を漁獲対象としています。

令和4年の漁獲量は2千3百トンで、前年の97%（平年比59%）、生産額は14億6千万円で前年の104%（平年比75%）でした。1船団あたりの漁獲量は581トンで、前年の97%（平年比94%）、生産額は3億6千万円で前年の104%（平年比120%）とともに平年並みでした。

石見地区における魚種別漁獲量の上位5種はキダイ（平年比151%）、アカムツ（平年比106%）、アナゴ・ハモ類（平年比104%）、マトウダイ（平年比161%）、マダイ（平年比171%）となりました（図5）。

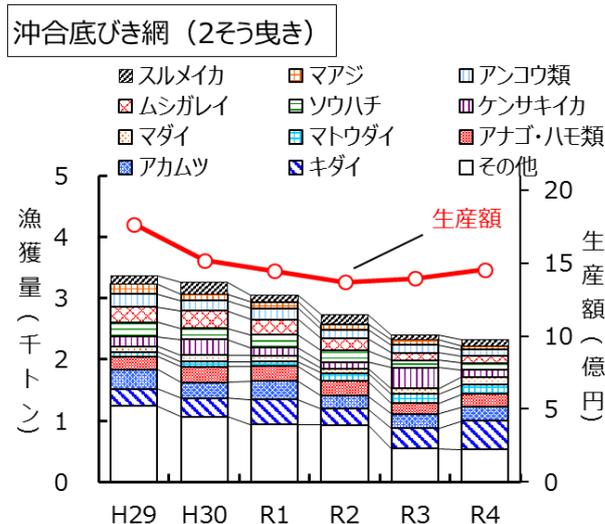


図5 石見地区の沖合底びき網（2 そうびき）による魚種別漁獲量及び生産額の推移

小型機船底びき網(かけまわし)・・・1隻あたりの漁獲量は前年の105%・生産額は前年の118%

小型機船底びき網(かけまわし)は、1隻の漁船で作業し、カレイ類、ニギス、タイ類など海底付近に生息する魚介類を漁獲対象としています。

令和4年の漁獲量は3千3百トンで、前年の100% (平年比92%)、生産額は16億4千万円で、前年の113% (平年比100%) でした(図6)。1隻あたりの漁獲量は90トンで前年の105% (平年比102%)、生産額は4千5百万円で前年の118% (平年比112%) とともに平年並みでした。

魚種別漁獲量の上位5種はソウハチ(平年比85%)、アンコウ類(平年比118%)、ニギス(平年比105%)、アナゴ・ハモ類(平年比103%)、キダイ(平年比142%) となりました(図6)。

小型底びき網1種

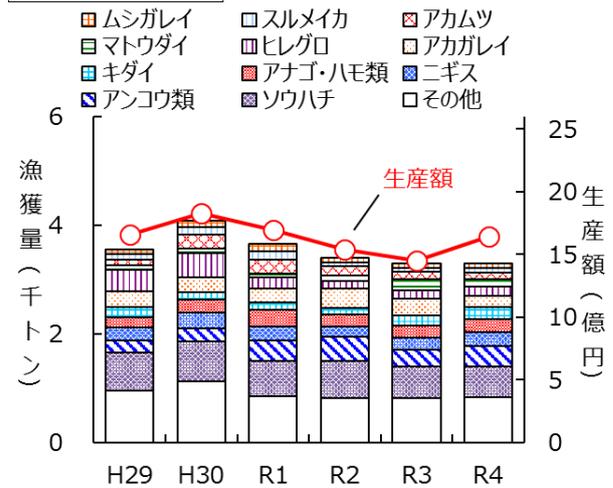


図6 小型機船底びき網(かけまわし)による魚種別漁獲量及び生産量の推移

定置網・・・大型定置網1経営体あたりの漁獲量は前年の131%・生産額は前年の122%

定置網(大型定置網・小型定置網・底建網)は魚の通り道に網を設置し、来遊してくる魚を漁獲する漁法で、マアジ、ブリ、サバ類、イカ類などを漁獲対象としています。

令和4年の漁獲量は6千トンで、前年の129% (平年比106%)、生産額は19億4千万円で、前年の122% (平年比97%) でした(図7)。また、大型定置網の1経営体あたりの漁獲量は266トンで前年の131% (平年比110%)、生産額は8千6百万円で前年の122% (平年比98%) でした。

海区別の漁獲量は、出雲地区は4千3百トン(平年比116%)、石見地区は792トン(平年比89%)、隠岐地区は840トン(平年比83%) でいずれも平年並みでした。

魚種別漁獲量の上位3種は、出雲地区ではマイワシ(平年比1,957%)、マアジ(平年比128%)、サバ類(平年比185%) となりました。石見地区ではサバ類(平年比172%)、マアジ(平年比74%)、トビウオ類(平年比152%) となりました。隠岐地区ではブリ(平年比114%)、マアジ(平年比59%)、スルメイカ(平年比75%) となりました。

定置網

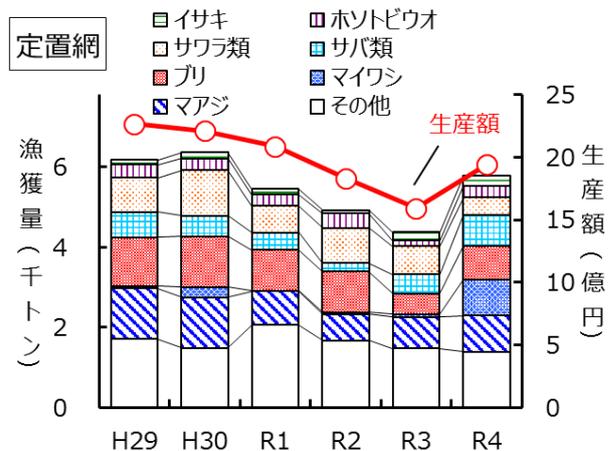


図7 定置網による魚種別漁獲量及び生産額の推移

釣り・延縄 …… 漁獲量は前年の100%・生産額は前年の114%

釣り・延縄は、釣り竿を用いた一本釣、縄から枝状に複数の釣り針を仕掛ける延縄など、釣り針に食いついた魚を釣り揚げる漁法です。

釣り・延縄の令和4年の漁獲量は712トンで、前年の100%（平年比82%）、生産額は7億1千万円で前年の114%（平年比94%）でした（図8）。

出雲地区の漁獲量は268トン（平年比71%）、石見地区は227トン（平年比79%）でともに平年を下回り、隠岐地区は217トン（平年比105%）で平年並みでした。

魚種別漁獲量の上位3種は、出雲地区ではブリ（平年比42%）、サワラ類（平年比56%）、クロマグロ（平年比34%）、石見地区ではクロマグロ（平年比26%）、ブリ（平年比56%）、ヒラマサ（平年比49%）、隠岐地区ではブリ（平年比115%）、カサゴ・メバル類（平年比95%）、クロマグロ（平年比180%）となりました。

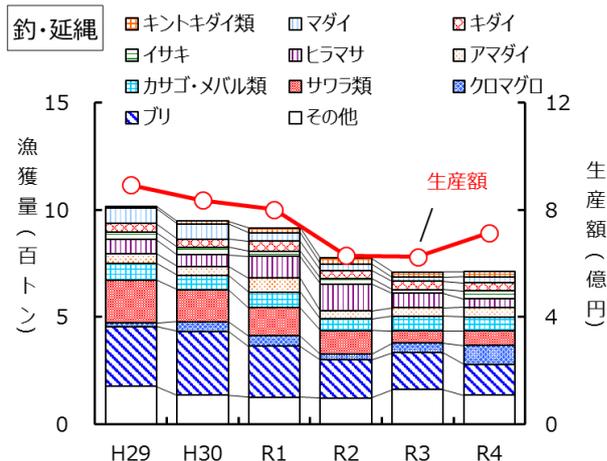


図8 釣り・延縄による魚種別漁獲量及び生産額の推移

いか釣り …… ケンサキイカの漁獲量は前年の71%・スルメイカの漁獲量は前年の83%

いか釣りは名前の示すとおりスルメイカやケンサキイカなどのイカ類が漁獲対象で、本県では夜に集魚灯（漁火）によりイカを集める夜釣りが主流です。

令和4年の漁獲量は293トンで、前年の75%（平年比52%）、生産額は3億2千万円で前年の92%（平年比61%）とともに平年を下回りました（図9）。

魚種別の漁獲量の動向は、ケンサキイカは平年比39%、スルメイカは平年比76%、ヤリイカは平年比39%でした。

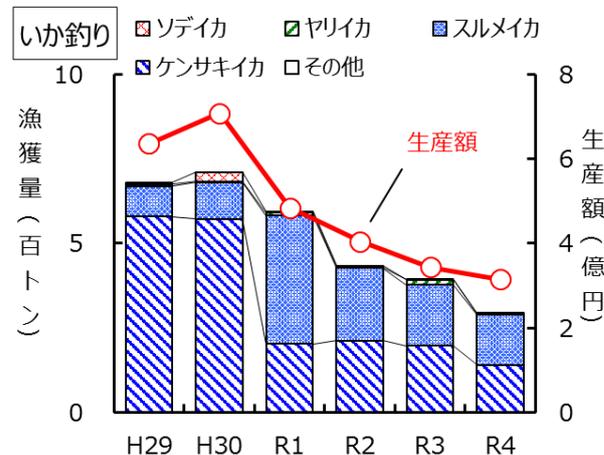


図9 いか釣りによる魚種別漁獲量及び生産額の推移

※ 各漁業の概要や「トビウオ通信」のバックナンバーについては島根県水産技術センターのホームページをご覧ください。
 (<https://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/>)

表1 令和4年の県内主要漁業の海区別漁獲量・生産額

漁業種類	海区	漁獲量※			生産額※			1ヶ統あたり漁獲量※			1ヶ統あたり生産額※		
		量(トン)	平年比	前年比	金額(百万円)	平年比	前年比	量(トン)	平年比	漁模様	金額(百万円)	平年比	漁模様
すべての漁船漁業	全県	98,132	97%	110%	17,667	100%	118%	—	—	—	—	—	—
中型まき網	石見	2,702	61%	99%	532	67%	110%	1,430	85%	○	273	92%	○
	隠岐	72,271	106%	112%	5,758	103%	114%	9,088	107%	○	734	105%	○
沖合底びき網 (2そう曳き)	石見	2,322	59%	97%	1,457	75%	104%	581	94%	○	364	120%	○
小型機船底びき網 (かけまわし)	石見	3,026	88%	100%	1,487	97%	112%	90	101%	○	44	110%	○
定置網 ※※	出雲	4,344	116%	136%	1,415	99%	119%	309	117%	○	100	98%	○
	石見	792	89%	116%	222	87%	139%	184	93%	○	51	92%	○
	隠岐	840	83%	112%	303	98%	123%	192	90%	○	71	100%	○
釣り・延縄	出雲	268	71%	95%	265	98%	120%	—	—	—	—	—	—
	石見	227	79%	98%	221	94%	108%	—	—	—	—	—	—
	隠岐	217	105%	112%	229	91%	114%	—	—	—	—	—	—
いか釣り	出雲	84	44%	68%	116	57%	91%	—	—	—	—	—	—
	石見	84	59%	73%	114	74%	92%	—	—	—	—	—	—
	隠岐	125	54%	81%	85	54%	91%	—	—	—	—	—	—

※ 全体の漁獲量・生産額・平年比は県内の全漁業協同組合・全経営体が対象。

平年比: 過去5年(平成29年～令和3年)の平均値との比較、沖合底びき網2そうびきのみ過去10年(平成24年～令和3年)

漁模様: ◎平年を上回る、○平年並み、▲平年を下回る

※※定置網の1経営体あたり漁獲量・生産額は集計対象期間(平成29年～令和4年)に操業実績のある大型定置網のみを対象に算出。